

教育用医療情報のデジタル化を開始

高度情報通信ネットワーク社会の推進の波は歯科医療においても例外ではなく、歯科医療情報のデジタル化、高速ネットワーク化が急速に進んでいます。このような時代の要請を考えれば、歯科教育の中においてもデジタル化された医療情報の有効な使用法およびデジタル化に潜む数々の危険性に対応できる歯科医師の養成が必要と思われれます。

そのためには、臨床実習の中でデジタル化された歯科医療情報の教育を行うことが重要かつ最も教育効果をもたらすと考え、福岡歯科大学の医療情報の大部分をデジタル化しネットワークで結ぶ本事業を平成19年7月から本格的に開始することになりました。

学内LAN情報処理関係設備を更新・整備

「動画配信を主としたe-learningシステム構築のための情報処理整備事業」は、ネットワークのスピードの要となるコアスイッチおよび各エッジスイッチを現在の100BaseTXから1GB対応とするとともに、サーバ類を更新することで動画配信をスムーズに行うことができるネットワーク環境を構築することを目的として開始されます。これにより、オン・デマンドで動画を主とした学習素材を配信するe-learningシステムを構築することができるようになり、学生が自ら学習する際に学内であれば時間や場所を問わずにオ

ン・デマンドでテキスト、静止画像、動画などの学習素材を繰り返し見たり、解説を聞いたりすることができるようになります。講義においても教科書やノートによる学習という従来の講義形式ではなく、多くの症例のスライドやビデオを用いたケーススタディを行うことにより、診療参加型実習を初めとする臨床実習、あるいは基礎実習につながる講義への理解が深まるとともに問題解決能力の向上が期待できます。

教育のための新型CT装置および 歯科用CT装置を導入

口腔外科領域の疾患のみならず、口腔インプラント治療のための検査としてもCT検査は不可欠の検査となっています。さらに、歯・歯周組織の疾患を念頭にいた歯科用CTが開発され、一般歯科医院へも導入されています。この状況を考えると、最先端の歯科医療を行う上でCTに関する豊富な知識を持ち、実習を経験した歯科医師の養成が必要であることから、本年3月、最新鋭のCT(写真)および歯科用CTの導入が行われ、医科歯科総合病院放射線科に設置されました。



最新型透過電子顕微鏡を設置

3月末、医科歯科総合病院4階の生体構造学講座電子顕微鏡室にトモグラフィ対応の最新型透過電子顕微鏡(写真)が設置されました。本装置の導入により切片内の構造物を立体的に観察することが可能となり、細胞や細胞内小器官、組織構成成分などの微細構造を三次元レベルで解析できます。口腔医学の進展のため、活発な利用が期待されます。



歯科医師臨床研修スタート

4月2日、平成19年度歯科医師臨床研修開始式が601教室で執り行われ、71人が臨床研修歯科医として研修をスタートしました。研修は福岡歯科大学医科歯科総合病院の他、協力型臨床研修施設において来年3月末まで行われます。



辞令を受ける臨床研修歯科医

福岡医療短期大学公開講座

3月11日、福岡医療短期大学で公開講座『笑う介護士の極意～コミュニケーションの達人に学ぶ～』(講師 袖山卓也氏)が開催されました。当日は本学の学生や福祉現場の介護福祉士、看護師、介護に関心のある一般の方や学生など166人が参加し、日常生活の中から見いだされた介護のヒントを交えた講演が和やかな雰囲気の下で行われました。



ジェスチャーたっぷりに講演する袖山卓也氏

3月18日、福岡医療短期大学で「「口腔ケア」から始める介護予防」と題した公開講座「口腔ケア実践教室」が開催されました。これは文部科学省の平成18年度「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に選定された取組の一つで、口腔ケアの実際を広く地域に情報提供する試みで、今後も開催される予定です。



口腔ケアの実技講習